

ノビエに 長期残効!! (50~60日程度)



移植時~ノビエ2.5葉期
まで使える!!

低コスト稲作に貢献!!

水稲に優しい除草剤!!

アゼナ、ホタルイなど
さまざまな雑草に効く!!

使いやすい フロアブル剤です!!



ノビエ



アゼナ



ホタルイ



セリ



ミスガツリ



コナギ

オキサジクロメホン
M4-100
配合



長期残効タイプ

水稲用 初・中期一発処理除草剤

サラブレッド® フロアブル

農林水産省登録 第20434号

低コスト稲作に!!

●有効成分
 イマズスルフロン.....1.7%
 オキサジクロメホン.....1.2%
 ダイムロン.....18.0%
 ●安全性：普通物

長期残効タイプ 水稲用 初・中期一発処理除草剤

サラブレッド[®]フロアブル

農林水産省登録 第20434号 ㊟は登録商標

特長

- ① アゼナ、ホタルイなどさまざまな水田雑草によく効く。
- ② ノビエなどに50～60日程度の長期残効。
- ③ 水稲に対して優しい除草剤。
- ④ 『田植同時散布』も可能。田植をしながら除草剤散布も同時に行う省力散布技術
- ⑤ 移植時からノビエ2.5葉期まで使える。
- ⑥ 初期除草剤との体系処理ができる。

適用と使用方法

2009年9月現在

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤のみで使用する場合の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ (北海道を除く) ヘラオモダカ (北海道、東北、北陸) オモダカ (東北・関東・東山・東海) ヒルムシロ (北陸を除く) セリ クログワイ (東北・関東・東山・東海) シズイ(東北) アオミドロ・藻類 による表層はく離	移植時	砂壤土～ 植土	500mℓ/10a	1回	田植同時散布機で施用	全域の普通期及び 早期栽培地帯
	移植直後～ ノビエ2.5葉期 但し移植後 30日まで	原液湛水散布又は水口施用					

イマズスルフロンを含む
農薬の総使用回数
2回以内

オキサジクロメホンを含む
農薬の総使用回数
2回以内

ダイムロンを含む
農薬の総使用回数
3回以内
(育苗箱散布は1回以内、
本田では2回以内)

【使用上の注意事項】
 ① 使用量に合わせ秤量し、使いきる。② 使用前には容器を軽く振ること。また、使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。③ 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にブレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。④ ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前から本剤の散布適期である。オモダカ、クログワイ、シズイは発生期間が長く遅い発生のもので十分な効果を示さない。必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。⑤ 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合は、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失ないように適期に散布すること。⑥ 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化作業及び植付けはていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。⑦ 原液湛水散布の場合は水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。⑧ 水口施用の場合は入水時に本剤を水口に施用し、流入水と共に水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態(水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め田面水があふれ出ないように注意すること。⑨ 田植同時処理を行った場合は、入水開始後水深が3～5cmに達した時に、必ず水口をしっかりと閉じ、田面水があふれ出ないように注意すること。⑩ 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。⑪ 以下のような条件下では薬害が発生する恐れがあるので使用をさけること。⑫ 砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深が2cm/日以上)。⑬ 軟弱な苗を移植した水田。⑭ 極端な浅植えの水田。⑮ 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。⑯ 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用することは十分注意すること。⑰ いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。⑱ 本剤を使用した水田の田面水は、他作物の灌水に用いないこと。⑲ 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましい。

●農薬は正しく使しましょう！ ●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●小児の手の届く所には置かないで下さい。

2010年6月作成 全企企画社 10,000

